



関町小通信

令和2年1月8日
練馬区立関町小学校
学校だより 1月号

この辺りの者でござる

校長 加園正子

明けましておめでとうございます。令和初のお正月をいかがお過ごしでしたか。連日、穏やかな晴天に恵まれ、家族そろって初詣に行かれた方も多いのではないのでしょうか。

2020年が幕開けし、オリンピック・パラリンピックイヤーがスタートしました。昨年末には新国立競技場が完成し、年明けの元旦にはサッカー天皇杯決勝戦が開催されました。また、3月になると聖火リレーが始まり、羽田国際線が増便され、JR山手線新駅・高輪ゲートウェイ駅が暫定開業する予定です。さらに、各地で再開発が進められ、ホテルや商業施設が次々と開業し、国内外の方をお迎えする準備が着々と進んでいます。

東京オリンピック・パラリンピックの開閉会式で、演出の総合統括責任者を務める狂言師の野村萬斎さんが、東京から世界の人々へのメッセージとして最も伝えたいことの一つは、「多様性」と話されていました。狂言は室町時代に猿楽から発祥した喜劇で、多くの演目で「この辺りの者でござる」という第一声で始まります。場所・時代・文化を超えた「どこにでもいる市井（しせい）の人々」の滑稽さをシンプルに描いた演劇です。主語も場所も特定せずに、地位の違いを問わず、人以外の存在まで同列に見る、古来日本の精神性を現しているそうです。日本人がこれまで培ってきたおごらない精神・多様性を発信したいと言っていました。野村さんのお話を聞いて夏の東京オリンピック・パラリンピック開催への期待がさらに大きくなりました。

（※本校でも、来年度の5年生・6年生はパラリンピック観戦を予定しています。詳細については、都教委からの通知が参りましたら、お知らせします。）

さて、今日から3学期が始まりました。本校では、今年度の校内研究を「主体的・対話的で深い学びの実現～どの児童も生き生きと学ぶ授業を目指して～」とし、国語科の授業を中心に6回の研究授業を実施してきました。特に、友達とのペア学習・グループ学習に重点を置き、対話を通して意見を共有したり考えを深めたりしています。また、多様な意見や考えを出し合い、折り合いをつけながら課題を解決する力を高めています。18日には、1年生が今年度最後の授業を実施します。

このような取組を通して、3月には子供達の成長が実感できる終業式を迎えたいと思います。本年も、家庭・地域・学校との豊かなつながりを大切にして、ハートフル関小を合い言葉に子供達を共に育てまいりましょう。本年も、どうぞよろしくお願い致します。